

# 会 議 録

会 議 の 名 称	平成30年度第1回ひろさき教育創生市民会議
開 催 年 月 日	平成30年6月27日(水)
開 始 ・ 終 了 時 刻	午後2時30分 から 午後4時35分 まで
開 催 場 所	中央公民館岩木館2階 大ホール(弘前市大字賀田一丁目18番地3)
座 長 の 氏 名	弘前大学 教育学部長 戸塚 学
出 席 者	座長 戸塚 学            委員 工藤 寧子            委員 生島 美和 委員 関谷 道夫        委員 矢田 公夫            委員 柿崎 良樹 委員 對馬 明宏        委員 比内 道治            委員 石川 かおる 委員 川越 俊昭        委員 高山 洋子            委員 大湯 恵津子 委員 三上 美知子      委員 佐藤 義光            委員 黒木 和実 委員 境 江利子        委員 藤田 俊彦            委員 佐藤 優輝 委員 宮地 善道        委員 小野寺 妙太郎       委員 藤岡 隆昭 オブザーバー 葛西 里美
欠 席 者	委員 多田 健司        委員 鈴木 雅博            委員 杉間 修一 委員 吉川 満           委員 福田 悟              委員 成田 安男 委員 菊地 昭二        委員 三國 典央            委員 小山内 修 委員 秋元 彩香
事務局職員の職氏名	教 育 長 吉田 健            教 育 部 長 野呂 忠久 教育政策課長 菅野 昌子      学校づくり推進課長 三上 善仁 学務健康課長 中田 和人      学校指導課長 木村 文宣 教育センター所長 三上 文章      生涯学習課長 戸沢 春次 博物館長 加藤 裕敏        文化財課長 成田 正彦
会 議 の 議 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティの活性化について</li> <li>～地域とともにある学校～</li> </ul>
会議資料の名称	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「コミュニティの活性化について～地域とともにある学校～」資料イメージ図</li> <li>・テーマ1「埋もれた人材の活用について」テーマ実施のワークシート</li> <li>・テーマ2「放課後の居場所づくりについて」テーマ実施のワークシート</li> <li>・テーマ3「課外活動(特に部活動)について」テーマ実施のワークシート</li> </ul>
会 議 内 容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 委員紹介</li> <li>3. 教育長挨拶</li> </ol>

#### 4. 座長挨拶

#### 5. 議事

コミュニティの活性化について

～地域とともにある学校～

#### 6. 報告（非公開）

#### 7. 閉会

### 【内容】（概要）

## 2. 委員紹介（異動等により新たに委員になられた方8名の紹介）

## 3. 教育長あいさつ

- ・五月二十日より、新たに教育長に就任した吉田健です。
- ・本日の会議のテーマは「コミュニティの活性化について～地域とともにある学校～」とした。前回会議と同じテーマだが、学校・家庭・地域・行政が連携・協働し、子どもたちにとってよりよい教育環境づくりを進めるためには、現状や課題を共有するために議論をより具体的に進めていくことが重要だと考えている。そのためにも、前回会議で委員の皆様から頂いたご意見を、より深く掘り下げてご検討いただくことで、課題解決のための具体的な取組へとつなげていきたいと考えている。
- ・今年度から全ての市立小・中学校において小中一貫教育がスタートし、また、10の中学校区28校でコミュニティ・スクールを導入した。次代の弘前を担う子ども達が、将来の夢や目標に向かってチャレンジできるように、「教育自立圏」を構築し、「義務教育9年間を貫く学びと育ちの環境づくり」と「地域とともにある学校」の実現に向けて、教育環境の一層の整備・充実に取り組んでいく。
- ・委員の皆様には、忌憚のないご意見をいただくとともに、本会議が、学校と地域を繋ぎ、ともに支え合う地域コミュニティの形成につながる架け橋となるよう期待申し上げ、挨拶とする。

## 4. 座長挨拶

- ・今回の会議は、前回のテーマと同じ「コミュニティの活性化について」だが、より具体的な議論をしていただくために、前回会議のご意見の中でも、提言されている数が多かった3つのテーマに絞り、テーマごとにグループで話し合っていた。
- ・各テーマについて、地域で連携・協働していく中で、直面している課題や、その課題を解決するためには、何が必要かを検討していただきたいと考えている。
- ・委員の皆様の立場や、地域の一員として感じている課題がたくさんあるかと思うが、市の取組にとらわれず、積極的にご意見・ご提案いただきたい。

## 5. 議事

### コミュニティの活性化～地域とともにある学校～（生涯学習課長）

- ・前回の会議では、配付したイメージ図に記載された7つの課題やキーワードに対して、「地域ができることは何か」をテーマに、各グループで自由に話していただいた。
- ・その結果、内容として多かったのが、「地域に埋もれた人材の活用」「放課後の居場所づくり」「課外活動（特に部活動）のあり方」の3つであり、今回はより議論を深めていただくために、テーマを3つに絞って会議を進めたい。
- ・新しく委員になられた方もいるので、最初に、「地域とともにある学校」のイメージ図について説明する。
- ・弘前市教育委員会の「みんなが学ぶ、みんなと学ぶ、みんなに学ぶ」という本年度の方針のもと、学校、家庭、地域がともに手を取り合って、地域が人を育て、人が地域を創るという好循環を生み出せるようにしたいと考えている。
- ・教育自立圏の構築とあるが、教育委員会の方針を受け、子どもたちが夢や希望に向かって義務教育9年間を一貫した教育環境で学び続けられるように、学校、家庭、地域、行政が各々の役割と責任をもって、子どもの健やかな成長に主体的に関わりながら、自立的・持続的な教育機能を有した「教育自立圏」の構築を推進することとしているもので、これまで以上に、学校・家庭・地域・行政が連携・協働し、「義務教育9年間を貫く学びと育ちの環境づくり」と「地域とともにある学校づくり」の実現を目指すもの。
- ・教育自立圏構築の手だてとして「小中一貫教育」、そして、コミュニティ・スクールと地域コーディネーターを組み合わせた「地域学校協働システム」を掲げている。
- ・この2つを一体的に導入することで、義務教育9年間を通して子どもが抱える課題やその解決策を教職員、保護者、地域住民が共有し、組織的かつ継続的に子どもたちを支えることが可能となるものと考えている。
- ・資料は地域とともにある学校というイメージで、それぞれの学校を核として、教職員、保護者、住民が連携・協働し、PTA、文化・スポーツ団体、関係機関（幼稚園、保育園、こども園、高校、大学、消防、警察など）、町会、活動団体等（地域づくり団体、NPO法人など）、企業がそれぞれ手をつなぎ合って、地域とともにある学校をつくっていくもの。
- ・学校を核として、様々な方々が連携・協働して学校や地域課題を解決することによって、学校にとっては、家庭や地域住民の理解や協力を得ることによって、教育活動が充実し、教育の質の向上につながり、地域にとっては子どもや学校とともに活動することで、地域の活性化や個々の生きがいがづくりに繋がり、コミュニティの活性化を図ることができるといふ、学校と地域がwin-winの関係構築を築けるようにしたい。
- ・資料に教育委員会とあるが、地域とともにある学校が抱える様々な課題

やキーワードとして①「家庭と地域の役割」から⑦「学力の向上」までを掲げて、それらに関連する各種事業を実施することで、教育委員会が下から支えているというイメージ。

- ・このイメージ図は、前回の会議でご意見・ご要望をいただいているが、まだ意見をいただいている最中なので、修正を加えていない。ひろさき教育創生市民会議以外でも説明をし、いろいろご要望をいただいているので、今後、整理・修正をしていきたいと考えている。
- ・グループでテーマごとに話し合っていたが、3つのテーマについてまとめて説明する。
- ・テーマ1の「地域に埋もれた人材の活用」について、前回の会議では、イメージ図の①家庭と地域の役割、②特色ある教育活動の推進に関することとして、「地域に様々な能力を持った人がいるのに生かしきれていない」、「人材の発掘と能力を発揮できる環境づくりが必要である」、「助成制度を創ることで学習支援が活発になるのではないか」という意見があった。
- ・ワークシートでは、国と市、それぞれの現状や課題、目指す姿、主な取組を掲載している。
- ・詳細については、説明を省略するが、この資料の記載内容に対することや普段見て感じていること、あるいは、ここに記載の取組だけでは不足しているとか別のやり方があるのではといったことなどを課題の欄に記入し、課題を解決するための取組や、そのために自らができること、さらには地域住民、教職員、保護者ができること、あるいはそれぞれにしてほしいこと、行政がすべきことに分けて、それぞれの欄に記載していただきたい。
- ・すでにワークシートに記載したり、思い描いていたりすることを、付箋用紙にその内容を書き出して、模造紙に貼っていただき、テーマ1のグループで話し合っていたきたい。
- ・テーマ2の「放課後の居場所づくり」については、これもイメージ図では、①家庭と地域の役割、②特色ある教育活動の推進に関することで出されたものだが、前回の会議では、「空き教室、公民館、児童館、交流センターなどを積極的に活用してもらうべきである」、「貧困家庭・ひとり親家庭に対する支援、孤食の防止、挨拶などを行うことによって、社会性が身に付くとともに食事を楽しむことができる子ども食堂の広がり期待する」という意見が出されていた。
- ・放課後の居場所づくりとして、空きスペースの開放、子ども食堂の増設や放課後の学習支援方法などについて現状や課題を出していただき、その課題に対して、それぞれができることや、やってほしいことをテーマ2のグループで付箋用紙に記入のうえ、話し合っていたきたい。
- ・テーマ3の「課外活動（特に、部活動）」については、イメージ図の⑤子ども・教職員の多忙化解消で、課外活動、特に部活動に関する内容が多く出された。
- ・主な内容としては、「部活動は、人との関わりや人間関係の構築などを

学ぶ上で、重要なアイテムである」、「部活動の指導者や顧問担当者等の共通理解と知識向上のための研修制度の確立が必要」といった意見が出されていた。

- ・指導者については、埋もれた人材の発掘ということでは、テーマ1のグループと重複する部分もあるが、重複していただいて構いません。3つのテーマではあるが、課題解決をするためには、様々な方法が複雑に重なり合ってくるので、グループのテーマ以外であっても、こうした方法もあるとか、少し違った角度から考えて提案するというのもしていただきたい。
- ・なお、部活動という表現を使っているが、前回の会議では、小学校でのスポーツ少年団活動も含んだ内容となっていたので、引き続きスポーツ少年団の活動に対することについても、含めて話し合いをしていただきたい。
- ・現状や課題などを出していただき、課題解決のためにそれぞれがどういうことができるのか、あるいはしてほしいのかということを書いていただき、テーマ3のグループで話し合っていたいただきたい。
- ・今回の会議も、前回同様に各グループでテーマに対する結論や意見の集約を求めものではない。話し合いの内容からヒントを得て、行政の施策に反映させたり、積極的に意見交換を行うことで皆さんが所属する団体の役割の確認ができたり、あるいは、できることの実現に向けた動機づけになればよいと考えている。現状を変えるためには、こんなことをすればよいのではないとか、こうすればもっとよくなるのに、といったことを気軽に書き出していただきたい。

#### ○質疑応答（発言なし）

#### ○テーマ1～3ごとにグループに分かれ討議

#### ○グループ報告

##### 【テーマ1：地域に埋もれた人材の活用について】

- ・町会に加入する若い世帯が少なくなり、町会に加入している世帯数が減少してきている。
- ・原因の一つに若い世代に町会への加入について声をかけていない部分もあるのではないか。
- ・町会加入のメリットについて見直したほうがいいかもしれない。
- ・町会に入るにあたっては、役割を設けていくのが大事。
- ・課題として、町会などの地域で人材を見つけていく中で、いわゆるアクティブシニアのように様々なスキルを身に付けている方に声をかけるためのきっかけづくりが必要。
- ・ただ声をかけるのではなく、何か目的があった事業を組んだうえで人材に声をかけていく。
- ・様々なスキルをもった人を見つけても、そういったスキルを教えるため

に、教え方のスキルが重要。

- ・講座づくりのための講座が必要。
- ・人材を見つけるにあたって、取り組んでいることを見えるようにしていくことが大事。
- ・学校でやっていることを地域に、地域でやっていることを学校に知らせるつなぎ役が必要。
- ・コミュニティ・スクールの関係で、「地域とともにある学校」の部分だけではなく、「学校とともにある地域」という側面を考えながら取り組んでいくことが、課題解決の糸口に繋がるのではないかと。
- ・地域の生きがいを見つけることも大事なので、そのための事業づくりに行政や地域が取り組めることが重要。

### 【テーマ2：放課後の居場所づくりについて】

- ・大学の取組で、公民館への支援として、子どもの面倒を学生に見てもらっているが、最近は学生の時間が取れない。解決のためには、学生にも何らかのメリットが必要なのでは。
- ・児童館等で万引き防止のPR活動をしていく中で、虐待の情報を得ることもあるので、それに対応している。
- ・市と連携して地域の巡回をしているが、巡回はボランティア。そのボランティアの人材が不足している。
- ・地域ぐるみで行う子ども会活動に参加する人が少なくなっている。
- ・就学前の子どもの保護者の育成が必要。託児なのか預けることによって教育に繋がるのか、事前に保護者が理解した上で子どもたちを預けることに結び付けていく必要がある。
- ・解決策としてはあげられた意見では、声かけ、挨拶を地域ぐるみで取り組んでいく。
- ・児童館などの指導者の育成、情報交換。
- ・放課後過ごすことができる場の広報活動、その窓口の明確化。
- ・就学前の子どもの保護者に対して、なかよし会や児童館の役割・利用について理解してもらおう。その理解をしてもらう仕組みを市でも取り組み、保護者に理解してもらったうえで、預けてもらうことが必要ではないかと。

### 【テーマ3：課外活動（特に部活動）の在り方】

- ・スポーツをしたい子どもたちでも、2つに分けると、勝つためのスポーツをしたい子どもと、勝ち負けよりも楽しくスポーツしたい子どもに分かれる。
- ・状況がわからないので、思い切って意識調査したほうがいい。その結果に応じた体制を整えていくようにしていく。
- ・勝つためのチームに所属しても保護者の連携が上手くいかない。
- ・楽しみながらのスポーツといっても、大学生であればサークル活動があるが、それまでは楽しみながらというのがなかなかない。そういう場の

展開を生涯スポーツとして、市が支援していく必要があるのでは。

- ・「勝ちたい」、「楽しみたい」を分けるとしても、学校の部活動となれば教師の負担になってしまう。
- ・教師の負担軽減のために全校一斉下校や、ガイドラインの徹底。
- ・指導者の育成が必要。勝利至上チームになると、指導者の管理体制などの質の向上が求められる。
- ・少子化でチームの編成ができないので、各小・中学校で短期チームを結成することができないか。
- ・ある程度大きな中学校になっても、チーム規模の大きい部活動を1校で全て行うのは難しい。
- ・地域がどうやって活動に入っていくかの前に、保護者の連携が必要ではないかというところまで話しているうちに時間がきた。

### **(質疑応答・意見補足)**

(委員)

弘前市は人材登録バンク等の設置にこれまで取り組んでいないのか。県では、社協センターで人材の把握をしている。埋もれた人材の活用も、放課後の居場所づくり、部活動などに関連した人材を登録して、その人が有償か無償などの情報を冊子にまとめる、もしくは、広報を利用するなどしてもっと人材を活用していただきたい。

(事務局)

過去に中央公民館で人材バンク制度を取り扱っていた。利用者が少なくなっていることや同様の制度を他で取り組んでいることもあり、中央公民館の人材バンクについては休止した。※

(委員)

どこかで人材を斡旋することがなければ、なかなか埋もれた人材は手あげないと思う。例えば、小学校のクラブ活動を新設するとなった時に、得意なことを児童に教えたいという人の名簿をまとめて募集することで、埋もれた人材が手を上げるようになる。コミュニティ・スクールであれば、そのときの働きかけをするコーディネーターが非常に重要になる。そこで差ができないように、教育委員会などが働きかけたりしなければ、なかなか手を上げないと思う。

(委員)

小学校に入る前の段階で、就学を見据えた家庭環境づくりで、早い段階から保護者の方にアプローチをしていくことが必要になってきていると思う。

今の保育所を利用している保護者はほとんどの方が延長を利用している長時間利用者である。このまま小学校に入ったときに、お金を払って放課後施設を利用すればよいという安易な考えだけでなく、例えば休日も含

めて、子どもとどう過ごすことが家庭として大事なのかを、早い段階で意識づけていくことが必要。

子どもの数は減ってきていても放課後の施設等の利用が増えてきているというデータもでている。歯止めをかけるというよりは、保護者が家庭環境の在り方を考えていけるようになればと思う。

例えば、子ども食堂では、都市部であれば良いが、地方で子ども食堂が増えてくるということは、それだけ家族でご飯を食べる機会が減ってきている、保護者とご飯を食べることができていない子どもが増えているということでもあるから、推進の仕方や在り方を、今一度考えなければいけない。

#### **(座長まとめ)**

- ・今日の3つのテーマについて、皆さんのご意見をお聞きしていて、まだ、地域の方も準備ができていないのではないかと感じた。
- ・その地域の準備には、行政の力をお借りしなければいけないということで、様々なところで出てくることが、人材の集約と情報の管理、活動の場の設定、情報の発信、家庭と地域を繋ぐための様々な連携といったものを、もう一度整備しなければいけなかったり、考えたりしなければいけない。
- ・これらの課題を一つ一つ解決していくとともに、今度はそれらを繋いでいくシステム、人材の集約、集約した人材をどういう場で生かすか、その活動の場があることをどのように情報を発信していくかということ、トータルで一つのものとして機能するように取り組んでいくことが必要。
- ・人材バンク等を作ったとしても、どのようにしたらそれらが、最終的に地域や学校まで情報がいくかということも含めて一体化できるように、線でつながられるようなものを考えていくことが必要だと改めて感じた。
- ・今後もこのような課題をご検討していただく機会があるかと思う。今日の課題や対応策は皆さんの中に閉まっていたら、次の時に生かしていければと思う。

#### **6. 報告（非公開）**

#### **7. 閉会**

（平成30年度の会議の日程について連絡。）

※ 中央公民館の人材バンク制度は休止ではなく、平成29年度に廃止。